

1 川崎市の北部地域の現状

- 北部地域は、山坂が多いなどの地形状況から、駅勢圏に比べエリアの奥行きが広いという地域特性を有しています。
- そのため、商業施設やサービス施設などが集積する鉄道駅までのアクセスはバス利用者が多く、今後もバスなどの公共交通が、主要な交通手段として利用されることが想定されます。
- また、本市の広域拠点である新百合ヶ丘駅周辺地区においては、様々な都市機能の集積が図られており、身近な駅周辺においても、日常生活を支えるまちづくりが進められています。

2 新たに設置する川崎市側中間駅の役割

- 新たに設置する中間駅の役割は、本市にとって大きなメリットとなるよう、以下のように考えています。

【地域交通の役割】

北部地域の公共交通ネットワークの充実等に資すること

【まちづくりの役割】

より広い地域から多くの人が身近な駅として利用でき、その効果により駅周辺の活性化や利便性の向上等に資すること

3 駅選定にあたっての比較検討・評価の視点

視点1 多くの人が利用できる環境が整っていること

駅周辺において、一定程度多くの人が利用できる環境が整っていることが望ましい。
⇒3案とも、輸送人員を踏まえた事業採算性等が見込まれることを確認した。

【地域交通】

視点2 既存のバス路線を中心とした地域交通との連携などによる相乗効果が期待できること

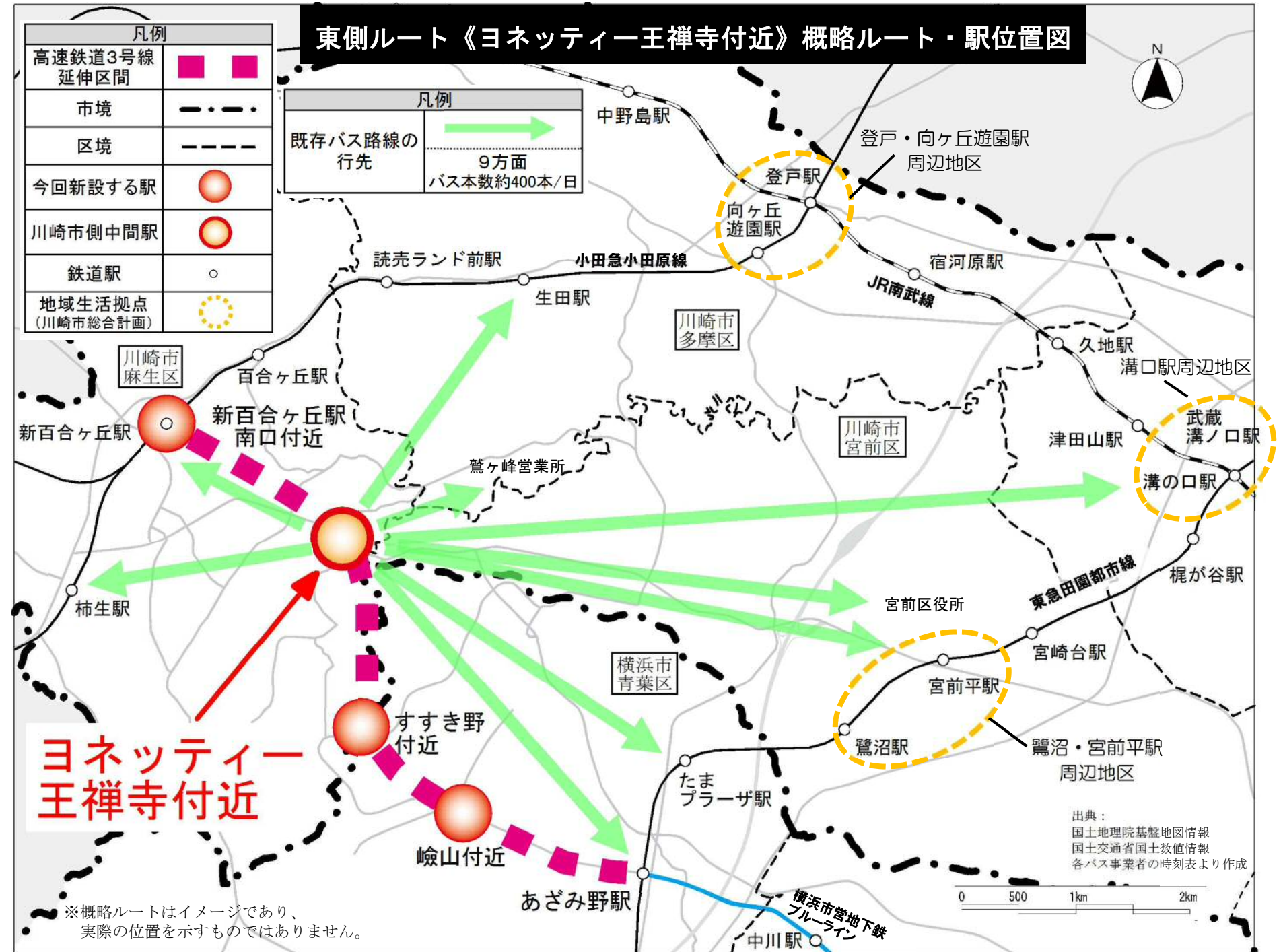
北部地域は既存市街地が広がっており、バスネットワークが既に存在するため、鉄道とバスの機能が競合することなく、多方面への連携により公共交通ネットワークを充実させることや、適切な機能分担を行うことが望ましい。

【まちづくり】

視点3 鉄道駅による周辺まちづくりの効果を活かすため、既存駅とのバランスを踏まえ中間駅が適切に配置されること

新たな中間駅の設置により、日常生活を支える身近なまちづくりを進めるため、より広い地域の人が利用できる環境となることにより、駅周辺のまちの活性化・利便性の向上等に繋がることが望ましい。

4 川崎市側の有力ルート案の考え方



【地域交通】〈◎〉《視点2》

北部地域の公共交通ネットワークの充実や、拠点駅へのアクセス性向上に最も寄与する。

- 多方面かつ広範囲に向かうバス路線が整っていることを踏まえ、鉄道とバスの連携による北部地域のアクセス性について高い効果が期待できる。
- 既存のバス路線が多方面に分散していることを踏まえ、鉄道との競合によるバス路線への影響が、比較的少ないと考える。
- 駅の立地を踏まえ、バス事業者と連携することで、鷺沼駅方面への路線など、更なるネットワークの充実に向けた取組が期待できる。

【まちづくり】〈◎〉《視点3》

中間駅が適切に配置されることで、より広い地域の人が利用できる環境となることから、駅周辺の活性化や利便性向上等に最も寄与する。

- 既存のバス路線が整っていることを踏まえ、多方面かつ広範囲の地域との連携により、より広い地域の人々の利用が期待できる。
- 既存のバス路線が多方面に分散していることを踏まえ、新百合ヶ丘駅等との機能分担が期待できる。
- 新百合ヶ丘駅などの既存の駅と最も離れていることを踏まえ、より広い地域の人々が利用でき、中間駅設置による、周辺への利便性向上等の波及効果が高まることが期待できる。

費用対効果や事業採算性が認められることに加え、川崎市側の地域交通やまちづくりの視点から総合的に評価した結果、北部地域の公共交通ネットワークの充実等や、より広い地域の人々が利用できる環境となること等に最も寄与することから、「東側ルート（ヨネッティー王禅寺付近）」を、より整備効果の高い有力ルート案と考えました。

川崎市側の有力ルート案（東側ルート）の考え方について

本資料は令和元年 8 月の説明会で配布した資料になります。

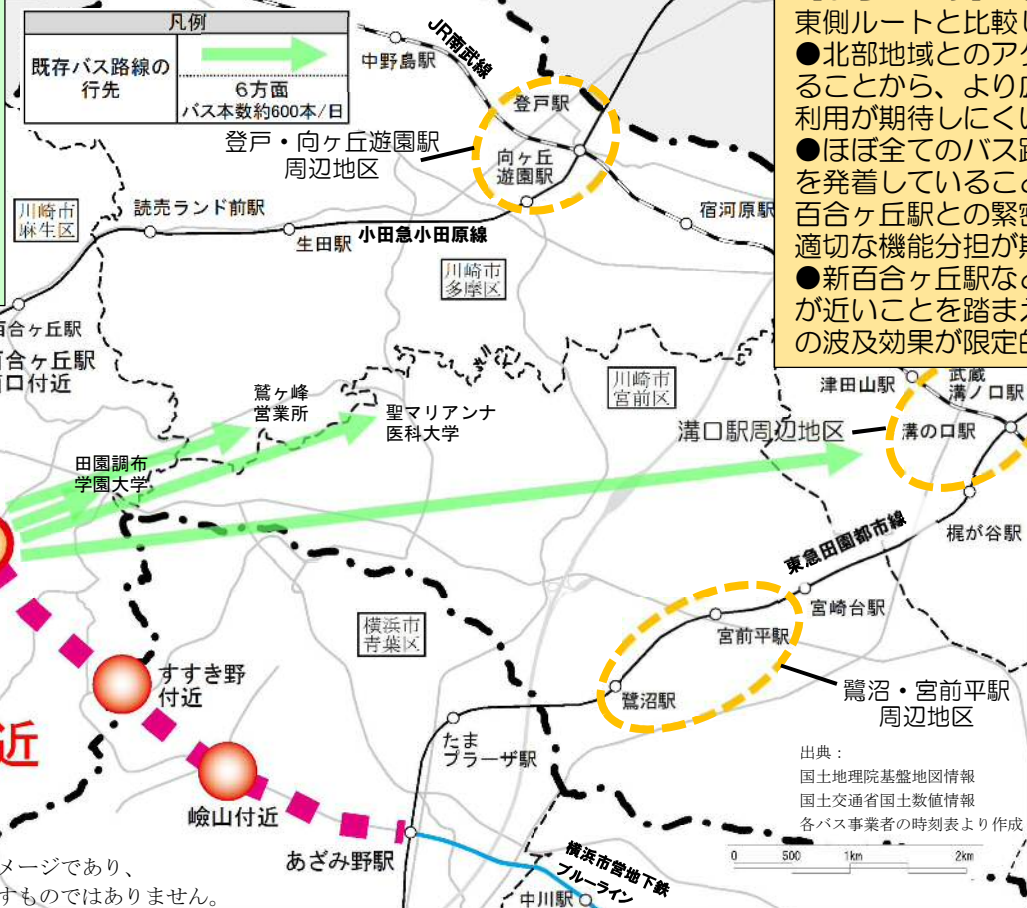
意見募集資料

令和元年 9 月
川 崎 市

西側ルート《白山付近》概略ルート・駅位置図

【地域交通】〈〇〉《視点2》
東側ルートと比較して、
●バス路線の本数が多いが、方面数や
行先を踏まえると、北部地域へのアク
セス性が限定され则认为。
●ほぼ全てのバス路線が新百合ヶ丘駅
を発着していることを踏まえると、鉄
道と機能が競合することで、既存バス
路線への影響が一定程度生じると考
える。

【まちづくり】〈〇〉《視点3》
東側ルートと比較して、
●北部地域とのアクセス性が限定されることから、より広い地域からの人の利用が期待しにくい。
●ほぼ全てのバス路線が新百合ヶ丘駅を発着していることを踏まえると、新百合ヶ丘駅との緊密性が高いことで、適切な機能分担が期待しにくい。
●新百合ヶ丘駅などの既存駅との距離が近いことを踏まえると、中間駅設置の波及効果が限定的になると考える。



凡例	
高速鉄道3号線 延伸区間	
市境	
区境	
今回新設する駅	
川崎市側中間駅	
鉄道駅	
地域生活拠点 (川崎市総合計画)	

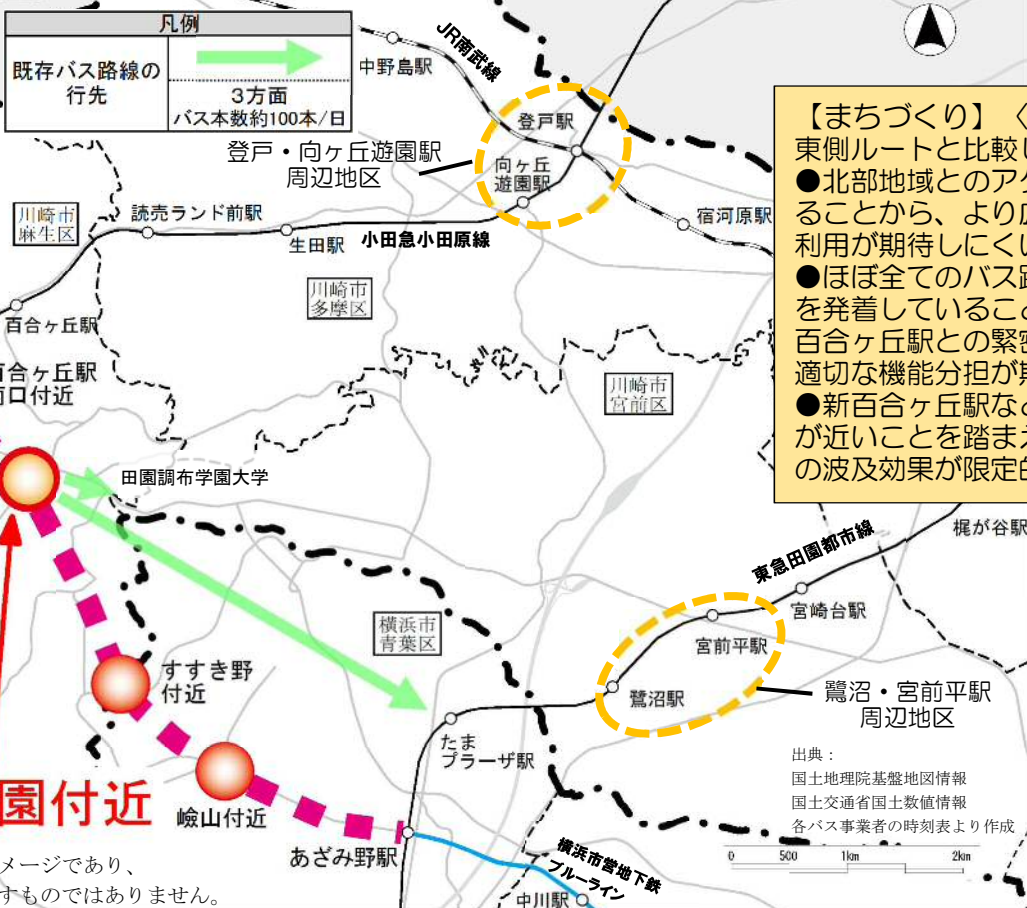
白山付近

※概略ルートはイメージであり、
実際の位置を示すものではありません。

中央ルート《王禪寺公園付近》概略ルート・駅位置図

【地域交通】〈△〉《視点2》
東側ルートと比較して、
●バス路線の本数や方面数が最も少ないことを踏まえると、北部地域へのアクセス性が限定され则认为る。
●ほぼ全てのバス路線が新百合ヶ丘駅を発着していることを踏まえると、鉄道と機能が競合することで、既存バス路線への影響が一定程度生じると考える。

【まちづくり】〈〇〉《視点3》
東側ルートと比較して、
●北部地域とのアクセス性が限定されることから、より広い地域からの人の利用が期待しにくい。
●ほぼ全てのバス路線が新百合ヶ丘駅を発着していることを踏まえると、新百合ヶ丘駅との緊密性が高いことで、適切な機能分担が期待しにくい。
●新百合ヶ丘駅などの既存駅との距離が近いことを踏まえると、中間駅設置の波及効果が限定的になると考える。



凡例	
高速鉄道3号線 延伸区間	 
市境	  
区境	  
今回新設する駅	
川崎市側中間駅	
鉄道駅	
地域生活拠点 (川崎市総合計画)	

王禪寺公園付近

※概略ルートはイメージであり、
実際の位置を示すものではありません。

ヨネッティー王禅寺付近の駅周辺まちづくり（参考イメージ）

【駅前】

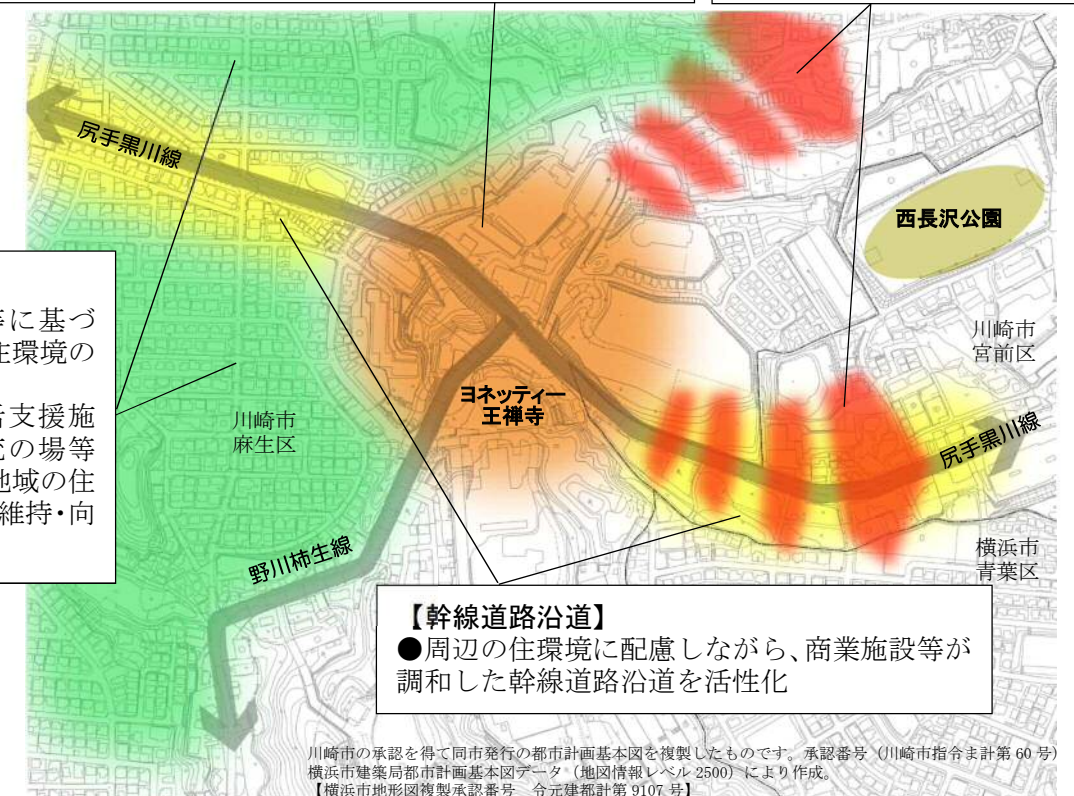
- 駅前広場などの整備による交通結節機能の強化
- 身近な商業機能の誘導、市民利用施設や文教施設との連携・活用による駅周辺の活性化や賑わいの創出

【駅アクセス】
●鷺沼駅や聖マリアンナ医科大学方面など、宮前区や多摩区、横浜市域も含めたアクセス性向上

【住宅地】

- 地区計画等に基づいた、良好な住環境の保全
- 身近な生活支援施設や地域交流の場等の創出など、地域の住環境や活力の維持・向上

●【幹線道路沿道】
●周辺の住環境に配慮しながら、商業施設等が
調和した幹線道路沿道を活性化



川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。承認番号（川崎市指令ま計第 60 号）
横浜市建築局都市計画基本図データ（地図情報レベル 2500）により作成。
【横浜市地形図複製承認番号 令元建都計第 9107 号】

《交通結節機能の強化と拠点性の向上》

- 既存のバス路線が各方面にバランスよく運行されている。
- 駅前広場などの整備を行うことで、交通結節機能の強化を図る。
- バス路線の充実や鉄道とバスの円滑な乗り継ぎを強化。

麻生区のみならず、宮前区や多摩区も含めた駅へのアクセス性を高める。
周辺地域の利便性向上に資する拠点となるよう様々な取組を進める。

《駅周辺における賑わいなどの向上》

○既に市民利用施設や文教施設などが集積している。

- バス路線との連携による新駅の高い交通結節機能を活かし、駅周辺地域や駅利用者の利便性向上を図る。
- 身近な商業施設や市民利用施設、文教施設などの地域資源などとの連携・活用による賑わいの創出など、新駅設置の整備効果を最大限に活かす。

地域特性に応じた駅周辺にふさわしいまちづくりを推進する。

※上記のヨネッティー王禅寺付近の駅周辺まちづくりについては、有力ルート案（東側ルート）のイメージを、参考でお示したものであり、具体的なまちづくりの方向性については、ルートを1案に選定後、ルートや駅位置に応じてあらためて検討します。

川崎市側の 3 つの概略ルート・中間駅については、費用対効果や事業採算性が認められることに加え、まちづくりや地域交通に関する視点からの検討を行い、総合的に評価した結果から、有力ルート案をお示しいたしました。本資料は、その考え方を補足するものです。

1. 費用対効果や事業採算性の比較

⇒ いずれの案も費用対効果や事業採算性が認められます。

	西側ルート	中央ルート	東側ルート
駅 位 置	あざみ野駅（既設）～嶮山付近～すすき野付近～川崎市域中間駅～新百合ヶ丘駅南口付近		
川 崎 市 側 中 間 駅	白山付近	王禅寺公園付近	ヨネッティ王禅寺付近
整 備 延 長	6. 3 k m	6. 0 k m	6. 5 k m
概 算 事 業 費	1, 7 6 0 億円	1, 6 9 0 億円	1, 7 2 0 億円
輸 送 人 員	7. 8 万人/日	8. 0 万人/日	7. 9 万人/日
所 要 時 間	約 1 0 分	約 9 分 30 秒	約 1 0 分
費用便益比（B/C）	1. 48	1. 59	1. 53
累積損益欠損解消年	30 年	25 年	28 年
累積資金不足解消年	36 年	33 年	34 年

2. まちづくりや地域交通に関する視点による比較

川崎市側の中間駅の設置にあたっては、まちづくりや地域交通に関する視点から、駅の設置効果を最大限に発揮できるよう、以下の 3 つの視点を踏まえて、比較検討を実施しました。

- 視点 1 多くの人が利用できる環境が整っていること
- 視点 2 既存のバス路線を中心とした地域交通との連携などによる相乗効果が期待できること
- 視点 3 鉄道駅による周辺まちづくりの効果を活かすため、既存駅とのバランスを踏まえ中間駅が適切に配置されること

視点 1 多くの人が利用できる環境が整っていること

⇒ いずれの案（駅）も、一定程度、多くの人が利用できる環境が整っているものと考えられます。

西側ルート		中央ルート		東側ルート	
・駅周辺に大規模団地などの住宅地や文教施設が存在する。	○	・駅周辺に住宅地が存在する。	○	・駅周辺に市民利用施設や文教施設、住宅地が存在する。	○

視点 2 既存のバス路線を中心とした地域交通との連携などによる相乗効果が期待できること

⇒ 東側ルートは、多方面に向かう既存バス路線と鉄道との連携を図ることが可能であり、公共交通ネットワークの充実において、最も相乗効果が見込めます。

- 東側ルートは、多方面に向かうバス路線が整っており、中間駅を設置した場合も、これらの既存バス路線との重複による影響が比較的小さいと考えられます。
- 西側ルートは、既存バス路線の大半が白山付近と新百合ヶ丘駅を連絡する路線であり、中間駅を設置した場合、機能が重複すると考えられます。
- 中央ルートは、バスの本数が少ないことや、新たに周辺エリアと接続するバス路線の可能性が低いと考えられます。

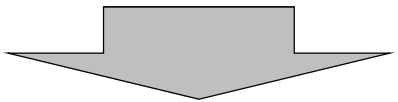
西側ルート		中央ルート		東側ルート	
・既存バス路線の本数が多い。 ・既存バス路線の行先は多いが、大半が白山付近と新百合ヶ丘駅を連絡する路線であり、バスと鉄道の機能が重複する。	○	・既存バス路線の本数が少ない。 ・既存バス路線の行先が少ない。	△	・既存バス路線の本数が多い。 ・既存バス路線と多方面で接続している。	◎
（参考）近傍を通過するバス総本数 ⇒約 600 本/日		（参考）近傍を通過するバス総本数 ⇒約 100 本/日		（参考）近傍を通過するバス総本数 ⇒約 400 本/日	
（参考）近傍のバス路線の行先 ⇒①新百合ヶ丘駅 ②大谷 ③聖マリアンナ医科大学 ④田園調布学園大学 ⑤溝口駅 ⑥鷺ヶ峰営業所		（参考）近傍のバス路線の行先 ⇒①新百合ヶ丘駅 ②田園調布学園大学 ③たまプラーザ駅		（参考）近傍のバス路線の行先 ⇒①新百合ヶ丘駅 ②宮前平駅 ③宮前区役所 ④溝口駅 ⑤鷺ヶ峰営業所 ⑥生田駅 ⑦柿生駅 ⑧あざみ野駅 ⑨たまプラーザ駅	

視点 3 鉄道駅による周辺まちづくりの効果を活かすため、既存駅とのバランスを踏まえ中間駅が適切に配置されること

⇒ 既存駅から距離が離れている東側ルートが、中間駅設置の波及効果を最も期待できます。

- 東側ルートは、他案と比較し既存の駅から中間駅までの距離が最も離れていることから、新百合ヶ丘駅等との機能分担を踏まえ、中間駅の周辺まちづくりの効果がより期待できます。また、バス路線等との連携により、麻生区のみならず宮前区や多摩区にまで、アクセス性や利便性向上の波及効果が期待できます。
- 西側ルートは、利便性が高い新百合ヶ丘駅への既存のバス路線によるアクセス性が高いこと、また、中央ルートは、新百合ヶ丘駅までの距離が短いことから、新百合ヶ丘駅等との機能分担を踏まえると、駅周辺まちづくりの効果が限定的になる可能性があると考えられます。

西側ルート		中央ルート		東側ルート	
・利便性が高く広域拠点である新百合ヶ丘駅へのバス路線が充実。 ・新百合ヶ丘駅、柿生駅との距離が近い。	○	・利便性が高く広域拠点である新百合ヶ丘駅や、百合ヶ丘駅との距離が近い。	○	・利便性が高く広域拠点である新百合ヶ丘駅や、百合ヶ丘駅から一定程度、距離が離れている。	◎
（参考）既存駅までの直線距離 新百合ヶ丘駅 約 1, 500m 柿生駅 約 1, 300m		（参考）既存駅までの直線距離 新百合ヶ丘駅 約 1, 300m 百合ヶ丘駅 約 1, 500m		（参考）既存駅までの直線距離 新百合ヶ丘駅 約 1, 900m 百合ヶ丘駅 約 1, 800m	
（参考）新駅－新百合ヶ丘駅間のバス本数 ⇒約 600 本/日		（参考）新駅－新百合ヶ丘駅間のバス本数 ⇒約 100 本/日		（参考）新駅－新百合ヶ丘駅間のバス本数 ⇒約 200 本/日	



・費用対効果や事業採算性が認められることに加え、川崎市側におけるまちづくりや地域交通に関する視点からの検討を行い、総合的に評価した結果、両市としては、「東側ルート（ヨネッティー王禅寺付近）」を、より整備効果の高い案と考えました。